

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0170401277		
法人名	医療法人 尚仁会		
事業所名	グループホーム「西まち」2階梅ユニット		
所在地	札幌市西区西町北8丁目1-25		
自己評価作成日	平成29年7月20日	評価結果市町村受理日	平成29年10月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2016.022_kan=true&JigyouyoCd=0170401277-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成29年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人に対しても、物に対しても「優しさ」を伝える手法として「指先から優しく」という言葉を使い職員に指導している。人に対しても、物に対しても関わる動作の中で指先最後まで添える事で優しさや安心感が伝わり全体的に穏やかな環境が作れる。実践から強く感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市西区の市街地に位置し、地下鉄東西線発寒南駅から徒歩3分にあり、利便性のよい地区に3階建ての2ユニットのグループホームである。2階3階が各ユニットで、1階は法人の元クリニックで現在は、会議打合せコーナーとなっている。近隣にコンビニなど各種商店が並んでおり、中小路には公園があり散歩コースに適している。交通の便がよいので、家族や友人なども訪ねやすく、月1回は全家族の来訪がある。法人は医療法人を母体として、以前から所在地に開院しており、現在は清田区だが、地域からの信頼も厚い。当事業所は、事業所の理念として「笑顔・安心・個性・協同」を掲げており、ケアの方針として「指先から優しく、優しく触れる」を謳い、職員のケアの基本となっている。また、ホーム長が豊富な経験を持つ看護師のため、看取り等医療連携の24時間の支援体制を構築しており、安心して暮らせる住まいである。家族会は3ヶ月毎に開催しており、毎月家族が来訪するなど家族との信頼も厚く、毎月の行事も多彩だが事業所主催の夏祭りには、地域の方も多数参加するなど地域の一員として協力関係を築いている事業所であり、これからも地域の拠点となる事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践に繋げられるよう毎朝申し送り時スタッフ全員で唱和している。	事業所の理念は、開設時に職員で検討し作成したもので、事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載している。また、名刺の裏にも明記して、毎朝の申し送り時に唱和し共有して、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が町内会の行事、草刈、ゴミ拾い等に参加し交流している。また、ホームの行事に参加していただき利用者とも交流してもらっている。	町内会行事のゴミ拾いやパークゴルフ・ボウリング大会などに参加している。また、事業所主催の夏祭りや敬老会などの行事に手品やフラダンスなどボランティアが参加して日常的に交流している。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等での交流が深まり地域の方々からは同居している高齢者の両親のことなど相談の連絡が入る。			
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎月の出来事や事故報告や苦情を頂いた事柄すべて報告している。又ご意見、アドバイス等を活用している。	運営推進会議は、地域包括支援センター担当者や地域の方、家族などが参加して、定期的開催しており、運営状況の報告や意見や要望を聞く会となり、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「連絡を密に」とはいかないが困ったことや知りたい事があるときはいつでも連絡し意見を聞いている	西区の介護事業所管理者連絡会を通じて、市担当者と交流しており、また、西区の徘徊対応訓練に参加して、事業者間の協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない具体的な行為」は介護保険開始よりスタッフ全員に周知徹底教育している。	身体拘束をしない指針やマニュアルを整備し、定期的に職員を外部研修に参加させ、事業所内では都度研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止に関する研修に参加し学ぶ機会を設けている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方がいないので、支援してはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や重要説明等の説明にはたくさんの時間をかけて行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月ごとに「家族会」をおこなっていて疑問や要望を聞いている。	「西まち」便りを毎月発行し、運営状況の報告をしており、利用者の生活状況は手紙にして、毎月家族に報告している。また、3ヶ月毎に家族会を開催して、家族からの意見や要望を聞く機会として、運営に反映している。	利用者や家族からの意見や要望を聞く機会として、定期的に家族会を開催して、運営に反映しているが、事業所内に意見箱を設置して、誰でもいつでも気軽に意見を出せる客観的な環境造りに配慮することを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見や提案等を言って頂ける機会は設けている。	職員の全体会議は、勉強会を含めて月2回定期的に開催しており、欠席者には議事録を閲覧させ共有を図っている。また、個人面談は年1回定期的に実施して、職員の意見や提案を聞き運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取れば正社員にしてもらえるが、その他では努力をしたから目に見えて給与等に反映されるという事は無く、休暇も取りづらい中みんな頑張ってくれていると思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはスタッフ個人見合った研修参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同区内の同事業所との勉強会、交流会に参加し親睦を図っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り入居希望見学時には本人も一緒に見学されるよう伝えている。又入居前には住まいまで出向いて直接本人に会うようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学希望時現状抱えている事の相談に耳を傾けアドバイス等し関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要なことを見極め新しい環境に慣れるようにスタッフ全員が気を使い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	機能低下により介護量が増える方が多いが、出来る方には調理手伝い、食器拭き等を一緒に行っていただいたりしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時本人に関する情報を伝えている。又月まとめ記録を渡し生活状況が分かる様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望があれば、家族の協力もと支援に努めている	西区の市街地な為、地下鉄駅至近で利便性もよく、家族や友人・知人の来訪が多い。家族と一緒に墓参りや馴染みの店などへ行っており、関係が途切れないよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入りながら、利用者同士関わりあえるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後であっても家族の相談等には応じている。又行事には誘いの連絡をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活なので、一定のルール（食事時間、就寝時間等の日課）があるが、その中でご本人の希望をうかがうように努めている	センター方式を活用し、利用者の思いや意向を把握するよう努めているが、日常生活の中でも本人の希望に添えるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の用紙のわかるところは家族に記入していただき、白紙の部分については生活していく中で分かったことがあれば書き加え生活歴把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の担当者が決まっており、その人の一日の様子を担当者が記録・申し送り行い、スタッフ全員で共有するようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と介護計画について話し合える場は少ないが、毎月月のまとめにて介護計画の評価をのせ、お伝えするようにしている。また、状態変化に応じて介護計画を見直すようにしている。	毎朝の申し送りや個別記録・スタッフノート等で情報共有し、利用者や家族の意見や要望を聞き、ケアプラン満了前にモニタリングを行い、介護計画を作成している。また、状態の変化に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスの時間がなかなか取れないので、個別記録やスタッフノート等で情報共有し介護計画見直しの際に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスの域を超えたサービスは行っていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に出ていくということがなかなかできていない現状であるが地域には時々訪問してくれる人もいる		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	H28.4月より訪問診療をお願いしている。24時間365日いつでも急変時には往診していただき安心して生活している。	以前からのかかりつけ医は家族同行で受診している。昨年の4月から協力医療機関が変更したが月2回の往診があり、ホーム長が看護師なので、24時間の適切な医療支援が受けられる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師にて24時間365日対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時医療機関とは介護添書を交換し情報交換している。又退院時退院指導等を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時「重度化に関する指針」について説明更に重度化した場合「看取り介護についての同意書」を交わし・看護師・職員と連携とりながら取り組んでいる。	入居契約時に「重度化に関する指針」を説明している。重度化した場合は、利用者及び家族と「看取り介護についての同意書」を交わして、医師・看護師・職員と連携しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的とまではいかないが、ホーム内で起こった急変時の対応や事故発生時の対応については考察し、次につなげられる様スタッフ全員で共有している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施している。避難訓練時には毎回町内会の方も参加している。又寝たきりの方の避難方法も実践している。毎年防災センターに研修参加している。	避難訓練は、消防署の指導の下、町内の方や家族の協力により、年2回定期的に実施している。備蓄や備品、非常電源も整備して、災害対策を行っている。また、毎年防災センターの研修に参加して、地域との協力体制も築くよう取り組んでいる。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所理念にもあるように一人一人の個性を大切に、それぞれ個人に合った対応を心がけている	ホーム長の「指先から優しく」というケアの方針で「優しく触れる」教えが、利用者である人生の先輩に対しての言葉使いを含めて人格の尊重をした対応に職員が努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者さんの声に耳を傾けるように意識している。また、自己決定が厳しい方でも、はい、いいえで応えられたり、うなづき等でこたえられるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	共同生活なので、食事や入浴、就寝などの時間は決まっているが、割とみなさんその時間を気にされ規則正しい生活を送られている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛カットのご希望があれば、訪問美容室を頼んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人には、芋の皮むきやもやしのひげ取りなどお願いしたり、食器拭きを役割として行っている。また月一回その月の誕生日の方の食べたいものを聞き、お楽しみ食として提供している。	食事は専属の担当者が3名おり、楽しい食事、特に誕生会のケーキも手作りで待ち遠しい程である。利用者は、食材の下準備や片付けなどを手伝っている。また、駐車場での夏祭りやバーベキューなど楽しい行事食も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランス、水分摂取量をチェックし不足の部分はどのように補うか検討しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後にはうがいや入れ歯洗浄をおこなっている。又訪問歯科より指導をうけ実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	つかまり立ちが出来る利用者のみ、トイレにての排泄を促している。	利用者個々の排泄記録を把握し、職員間で共有して、一人ひとりの機能に沿った自立したトイレでの排泄の支援をしている。また、ポータブルトイレも活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態をチェックし、個々に応じた対応を試みているが、食べたり飲んだりする物は提供できても、運動は習慣としてなかなか行ってもらえない現状である。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	概ね週2回は入浴できるように支援している。嫌がる場合は無理せず次回試みる。	浴室はユニット型で、暖かく、週2回以上の入浴である。希望により自由に入浴できるが午後からの希望が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンも全員違いますので個人に合わせて夜間不足であれば日中不足分をどの位休息していただくか検討し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬ボックスの中に処方させた薬の文章を入れスタッフは確認することが出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人にあった役割を検討して活かされよう工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、散歩は家族の協力がなければなかなか連れて行ってあげられない状況にある。	日常的に近隣の公園やコンビニエンスストアなどへ外気浴や散歩をしている。外出行事は、お花見やショッピングセンター、初詣など年間通じて家族の協力により実施している。駐車場でいう夏祭りは地域の方や家族が参加して楽しみな行事である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は所持している。管理できない方はホームで預かり収支は毎月家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに安心して居られる空間はとても重要な場所と思います。又スタッフの動きや音に対して十分気を配っています。	共用空間は、風通しや採光もよく、きれいに掃除され、清潔感を感じ、落ち着いた雰囲気な居間である。市街地の立地だが、ホーム内はゆっくりとした時が流れており、利用者の笑顔が溢れているホームである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での居場所は皆さん割と定着しており、その場所で安心して居られるので良いと思う。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の物を破ったり、破壊してしまう利用者さんの居室の物を安全のためホームで預かっているが、何も無い居室で居心地良く過ごせているのか、いつも悩んでいるところである。	居室の壁は白で、明るく、風通しもよい。利用者が使い慣れた家具や馴染みの物を持参して居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ある程度自分で出来る事はしていただき手が止まり困ったときに支援している。		